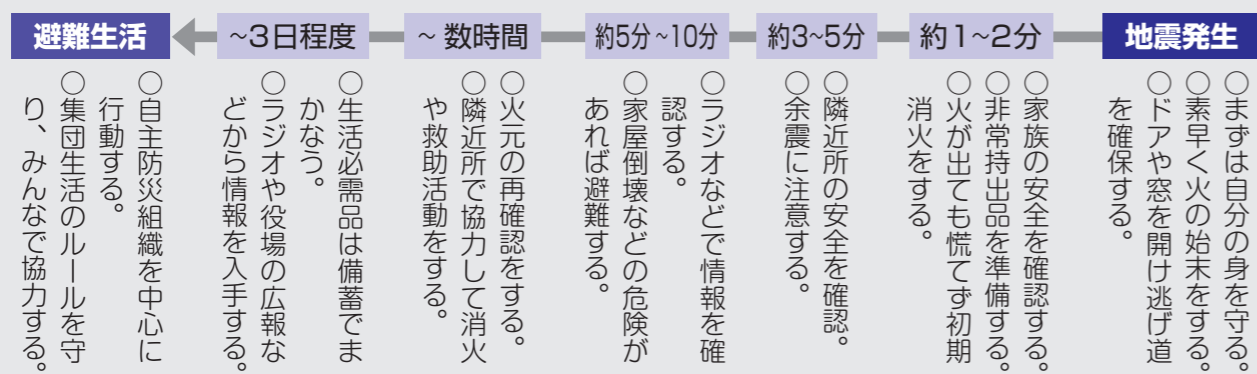


# 地震対策

## 発生から避難までの行動パターン



# 防災特集

平成23年3月11日、未曾有の大震災は突如としてやってきました。太平洋三陸沖を震源とした地震による震災は、「東日本大震災」と呼ばれ、東北地方を中心に関東各地にも大きな被害をもたらしました。また、この震災では、今までの想定をはるかに超えるモーメントマグニチュード9.0（震度7）を記録し、その影響による大津波が各地を襲いました。

町では、この震災を教訓に、防災・減災体制を強化することを目的として、津波に対する防災意識の高揚を図るとともに、9月25日に沿岸部の越前地区を対象に、地震と津波を想定した総合防災訓練を実施しました。

約1300人が参加した訓練は、高台への避難とそのルート確認から始まり、避難した高台では実用訓練や消防団による講習が行われました。予想を大きく上回る参加者で、住民の防災・減災意識が高いことが証明されました。各区による防災訓練を通して地域を主体とした災害に強いまちづくりの一步を踏み出すことができました。

## 【迅速な防災情報伝達のために】

災害時には、状況を適切に判断し災害に関する情報を皆さんに伝達することが望まれます。情報伝達の円滑化は迅速な避難や、被害を最小限に抑えるためにも重要です。町の情報伝達手段の一部をご紹介します。

**○防災行政無線からの情報伝達**  
町内には、防災行政無線設備が設置されています。（朝日地区の一部、宮崎地区、織田地区は23年度中に整備完了予定）  
災害時には拡声器からサイレンや避難勧告などの広報を実施します。

**○丹南ケーブルテレビ「L字システム」からの情報伝達**  
丹南ケーブルテレビの「デジタルコミュニティチャンネル91ch」で災害時にはデータ放送にて通常番組の放送中であっても、緊急情報を伝える画面に強制的に切替えます。



**○町ホームページ（緊急情報配信など）からの情報伝達**  
緊急時には、町ホームページ上に緊急情報を掲載します。また、緊急情報配信登録者には、メールで情報を配信しています。

### ◆家の中の安全対策

- ① 寝室や子ども部屋などに、背の高い家具はできるだけ置かないようにしましょう。
- ② 家具は転倒しないように、壁に固定しましょう。
- ③ 手の届くところに、懐中電灯・スリッパ、ホイッスルを備えておきましょう。スリッパは避難の際ガラス片などから足を保護します。ホイッスルは建物などの下敷きになった場合に救助を求めためのものであります。

### ◆身の守り方を覚えておきましょう

- ① 家の中では  
座布団などで頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れましょう。あわてて外へ飛び出さないこと。
- ② 街にいるときは  
ブロック塀や自動販売機など倒れてきそうなものから離れましょう。看板、割れた窓ガラスの破片が落下することがあるので建物の周囲から急いで離れましょう。
- ③ 山やがけ付近にいるときは  
落石やがけ崩れが発生しそうな場所から急いで離れましょう。
- ④ 自動車運転中は  
あわててスピードを落とさず、ハザードランプを点灯させながら徐行し、周囲の状況をみて路肩に停車させましょう。エンジンを止め車内で待ち、揺れが収まったら、キーをつけたまま車外に出て、安全な場所へ避難しましょう。

# 津波対策

## 津波からの避難5つのポイント



**① 地震の揺れの程度で自己判断しない**  
1896年の明治三陸地震津波では、沿岸で震度3程度だったにもかかわらず、大津波が押し寄せました。津波の危険地域では小さい揺れ、また、揺れを感じなくても、避難を最優先しましょう。

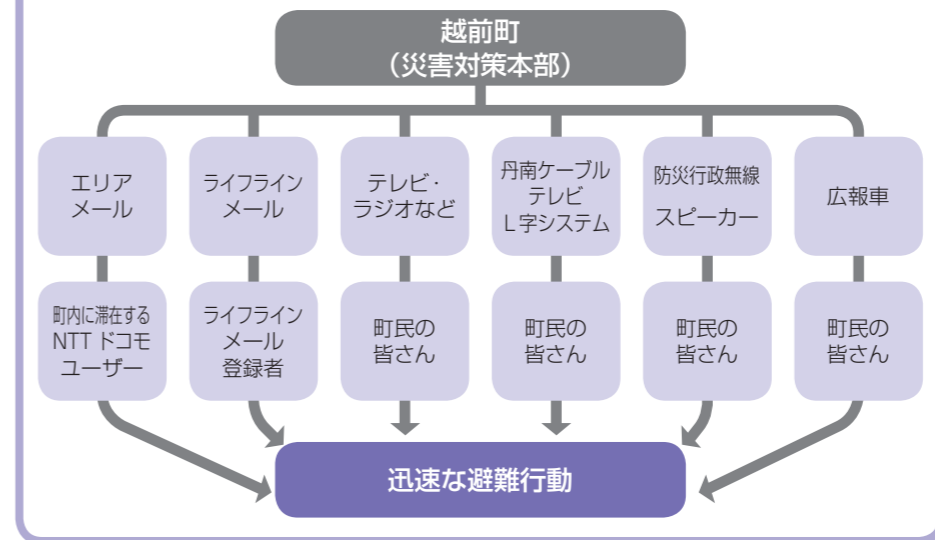
**② 「津波がない」という俗説を信じるな**  
1983年の日本海中部地震では、秋田県で海浜に遠足に来ていた小学生らが津波にさらわれるなどの被害がありました。「日本海では津波はない」というのは、単なる俗説であり、そのような根拠のない俗説に命をゆだねるより、気象庁の津波情報に耳を傾けましょう。

**③ 避難に車は使わない**  
原則として、車での避難はやめましょう。東日本大震災では、地震直後に車で避難した人が続出して道路が渋滞してしまい、車ごと津波にのみ込まれて命を落としてしまった人も多かったのです。

**④ 「遠く」よりも「高く」に**  
すでに浸水が始まってしまった場合などは、思うように避難できないことが予測されます。遠くよりも高い場所、例えば近くの高い所にある神社や広場などに逃げ込みましょう。ただ、その場合でも、できるだけ海岸から離れた高台を選ぶのが懸命です。

**⑤ 引き潮がなくても津波は襲う**  
津波の前には潮が引くとよく言われますが、前触れとして必ず引き潮があるとは限りません。引き潮がなくても、津波が起こることもあります。

### 災害時の情報伝達フロー図



**○エリアメール（NTTドコモ）からの情報伝達**  
越前町が配信する災害・避難情報を、回線混雑の影響を受けずに受信することができます。越前町内にいる人でNTTドコモの端末を使用している人に緊急情報としてメールが送られます。（越前町の住民以外の通勤中や観光中の人も受信の対象です。）